



一般社団法人
宮城県理学療法士会
ニュース 2016 No.1
(通巻157号)

目次

巻頭言	1
宮城県リハビリテーション専門職協会 設立のお知らせ	2
理学療法の日 開催報告	4
一般社団法人宮城県理学療法士会 交流会 開催報告	9
第24回日本物理療法学会 学術大会のご案内	10
第14回日本神経理学療法学会 学術集会のご案内	11
第20回宮城県理学療法 学術大会について	12

巻頭言

PT20 万人時代を迎える皆様へ

先般の第24回参議院議員通常選挙では、理学療法士の組織代表として日本理学療法士協会副会長の小川克巳氏が比例区より出馬され、無事当選を果たしました。宮城県理学療法士会は、小川氏の当選を目指す宮城県理学療法士連盟への活動協力の形で支援して参りましたが、理学療法士を国政の場に送り出すという最初の目標を達成できたことに安堵すると共に、会員の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

さて厚生労働省は、本年度に入って医療従事者の需給に関する検討会をはじめ、また理学療法士・看護師・介護福祉士・保育士などの養成課程で共通基礎課程を設けて、相互の資格取得の短縮化も検討し始めています(厚生労働省 第1回「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部資料より)。医療従事者の需給について、今回検討対象となっているのは医師・看護職と我々理学療法士作業療法士の4職種です。医師は2024～2033年の間に需給が均衡、看護職は2025年に試算と比較し3～13万人不足とされています。理学療法士作業療法士は、以前の試算で2006年には需給均等と言われていました。高齢化による地域医療構想策定の中で回復期の病床充実等の病床の機能分化・連携に対応するための需要増加、地域包括ケアシステムの構築における在宅医療や介護の分野での需要増加が見込まれる一方で、養成校や従事者数の大幅な増加が懸念されています。あと7年もすればPT人口は20万人に達し、今後私達を取り巻く例えば働き方や対象者や待遇といった労働環境は、流れに身を委ねたままでは私達が望まざる方向へ確実に変化していきます。是が非でもこの流れは変えていかなければなりません。

もう一点、日本理学療法士協会の組織率は年々低下しています。国家試験に合格してもそのまま未入会である方に加え、ある程度経験を有する方の退会も増えてきたような印象を受けています。これは働き方や理学療法士としての価値観の多様化も一因かと思いますが、前述の通り理学療法士が危機的な状況にあって、非常に深刻な問題です。協会の組織率に比べて本県の組織率は高い水準にあります。新卒者が会員となりやすい仕組みづくりや、会員の皆さんにとってより身近な存在である宮城県士会が、所属することの有益性を強く示し、組織率を更に高めるよう取り組んでいくことはまさに喫緊の課題です。

二人目の理学療法士国会議員誕生、厚労省資料を中心とした理学療法士の現状、そして協会組織の3つの話題に触れましたが、“理学療法士をよくしたい”という想いでこれらは共通しています。そして、理学療法士として働く皆さんの声を聞かせてください、という共通の願いがそこにあります。よりよい社会の構築へ向け現状を伺って声を束ね、政策に解決を委ねる行為こそ国会議員を輩出した私達の次なる行動でしょう。県士会、こうだったらいいのに、こんな会員サービスはできないの?…どれも大切なことです。アクションプランを整え少しずつ具体化して参りますので、今後とも宮城県理学療法士会そして宮城県理学療法士連盟の活動へのご理解とご協力を宜しくお願い致します。

一般社団法人宮城県理学療法士会 副会長
宮城県理学療法士連盟 会長 榊 望

宮城県リハビリテーション専門職協会設立のお知らせ

士会 HP にも掲載されました通り、平成 28 年 7 月 1 日に一般社団法人宮城県作業療法士会、宮城県言語聴覚士会とともに宮城県リハビリテーション専門職協会が設立されました。

平成 28 年 7 月 1 日

一般社団法人 宮城県理学療法士会

一般社団法人 宮城県作業療法士会

宮城県言語聴覚士会

会員各位

宮城県リハビリテーション専門職協会

会長 渡邊 好孝

副会長 道又 顕

副会長 遠藤 佳子



宮城県リハビリテーション専門職協会設立について

平成 28 年度の各士会定期総会において承認されました通り、宮城県リハビリテーション専門職協会が 7 月 1 日に設立致しましたのでご報告いたします。

近年、訪問リハ、地域包括ケアシステムに代表されますように 3 士会及びその他の関連職種と協働していく事の重要性が広く謳われてきております。

各士会での活動を活性化させていくことはもとより、リハビリテーション専門職が互いにより良い関係性を築き、宮城県のリハビリテーションの普及と向上を図り宮城県民の医療・保健・福祉の増進に寄与したいと考えております。

各士会員各位の御理解、御協力の程宜しくお願い申し上げます。

宮城県リハビリテーション専門職協会

会長 渡邊 好孝(一般社団法人宮城県理学療法士会会長)

副会長 道又 顕 (一般社団法人宮城県作業療法士会会長)

副会長 遠藤 佳子(宮城県言語聴覚士会会長)

【事務所】

〒980-0802

宮城県仙台市青葉区二日町 18 番地 25 号 シャルム二日町 603 号室

一般社団法人宮城県作業療法士会事務所内

【事務局担当】

〒983-0821

宮城県仙台市宮城野区岩切 1 丁目 12 番 1 号

仙台東脳神経外科病院 櫻井 健太郎(理学療法士)

TEL : 022-255-7117(代) FAX : 022-255-7760

E-mail:miyagirihakyoukai@outlook.com

宮城県リハビリテーション専門職協会 設立記念式典、記念講演会のお知らせ

宮城県リハビリテーション専門職協会設立に伴いまして、設立記念式典、記念講演会を下記の通りに開催します。

会 期：平成28年10月1日(土)
会 場：ホテルメトロポリタン仙台 4階 芙蓉の間
時 間：13:30～ 受付
 14:00～ 設立記念式典
 15:00～ 設立記念講演
講 師：岩名 礼介氏
テーマ：『地域包括ケア推進に係るリハ専門職に期待する事』

* 終了後、3士会合同での交流会を企画しております

記念式典、講演会、交流会についての詳細は FAX ニュース、HP にてお知らせいたします。

【問い合わせ窓口】
宮城県リハビリテーション専門職協会
事務局担当 櫻井 健太郎
E-mail:miyagirihakyoukai@outlook.com

会員管理班からのお知らせ

会員管理からのお知らせ ～異動届等の提出について～

先に日本理学療法士協会から示されているとおり、書面による申請は平成25年12月をもって廃止となり、平成26年1月からはWeb申請のみの受付となります。皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。
WEB環境が整わず申請が困難な場合など異動届に関してのお問い合わせは以下のアドレスにメールにてお願いいたします。

宮城県士会会員管理 membership@pt-miyagi.org

理学療法の日

全国統一介護予防・健康増進キャンペーン 2016 ～元気モリモリ頑張っぺ!!ココロとカラダの健康づくり～ 開催報告(平成28年7月17日:AER)

平成28年7月17日に『理学療法の日 全国統一介護予防・健康増進キャンペーン 2016』がアエルにて開催されました。今年も沢山の方々に足を止めていただき、体力測定、介護予防体操を体験して頂きました。今年度は宮城県理学療法士会独自の介護予防体操を作成し、今回のキャンペーンで初披露させて頂きました。ステージイベントでは一般社団法人宮城県作業療法士会、宮城県言語聴覚士会のご協力のもと、摂食嚥下、認知症という介護予防に重要な要素を総合的に伝えることができたと思われます。また、今年も the voice of LOVE による音楽ステージ、佐々木信之医師によるロコモ体操も披露して頂きキャンペーンの盛り上げを助けて頂きました。

当日運営に携わって頂きました沢山の宮城県理学療法士会会員の先生方に深く感謝致しますと同時に、来年度はさらに盛り上げられるような事業を企画していきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。



【体力測定】



【the voice of LOVE による音楽ステージ】



【元気モリモリ頑張っぺ体操】



【佐々木信之医師によるロコモ体操】

一般社団法人宮城県理学療法士会
事業局長 櫻井 健太郎

今年度も宮城県理学療法士会では、理学療法の日である7月17日に、宮城県の方々に介護予防についての認識を高め、高齢者自身の自己効力を高めるきっかけとなることを目的にキャンペーンを行いました。

広報部では、このキャンペーンに参加していただいた方々に、インタビューをしてきました。

一般社団法人宮城県作業療法士会による講話

「認知症を知る」

医療法人社団 東北福祉会 せんだんの丘 ホームヘルパーステーション 24

作業療法士 小野 咲子先生

今回の講話の内容は？

私自身が平成25年度から仙台市のモデル事業である認知症初期集中支援チームとしてイベントにも参加しているので、その内容なども含めてクイズ形式でお伝えできればと思っています。

そのチームの取り組みは？

仙台市の5区に対してチーム員数は3つあって、月に1回会議に参加し、オーダーがあればその都度地域包括支援センター職員を含めたチーム員と共にその方に何が必要かを検討しています。実際にその方の生活場面にも入っていくこともあります。

実際に現場に入ってみてどうですか？

1度の訪問では生活状況を把握することが難しく、多い時で2・3回の訪問を実施しました。デイサービスの必要性やトイレや入浴環境の助言などもしてきました。

現状としては認知症の方と早期に出会うことが重要なのですが、実際に地域包括支援センターに話が上がってくるのは重度な認知症のケースが多いですね。現実的には、その方を医療に繋げるにはどうしたらいいのかを検討することが多いです。

認知症予防の取り組みは？

まずは周りの方への働きかけをしていますね。家族の会と連携してその人の認知症状を知ってもらい、その関わりの中での変化を家族に感じ取ってもらいます。認知症という診断を受けなくてもそれを周りの家族が理解して対応していれば問題ないのですが、まだそういう理解が足りないのが現状です。病院に行って薬を貰うこと以外の対応もしていくべきかと思います。

県士会としての取り組みは？

県士会員として底辺を広げていく取り組みをしています。若い県士会員は、まだ始まったばかりの認知症への取り組みなのでどうしたらいいんだろうという気持ちが多いため、今年は認知症初期集中支援チームがどのように活動しているか発信していくところから始めていきたいと思っています。

3士会合同での取り組みも始まっているのですか？

そうですね。少しずつ始まっているようです。認知症だからOTが得意ということではなく、PT・STも全体で取り組んでいかないとこれからは難しいかと思えますね。私の職場ではOT・PT・ST関係なく老健入所の中で動いています。歩行訓練だからPTが行うのではなく、どの職種であっても様々なことに取り組み、分からないことがあったら随時専門職に聞くというふうにしています。認知症の方に関しても、PTが苦手なところはOTやSTがサポートしながら関わっています。どの職種がどうという確立はなかなか難しいので、垣根を越えてお互いがサポートすることや個々のスキルアップが大事ですね。



宮城県言語聴覚士会による講話

「食べることで介護予防」

プロンプター甲斐有限会社 言語聴覚士 小坂井 秀行先生

今回のテーマは？

今回は介護予防に関して、摂食・嚥下障害について話してほしいという依頼が来ました。脳に障害を持っている人のほとんどが多かれ少なかれ嚥下障害もっているんですね。食べることと嚥下は密接に結びついていますし、喋る筋肉と飲み込む筋肉は途中まではほぼ一緒なので、いかに衰えずに保ち続けるかということが口から食べ続けることの原点になるということをテーマにしています。



介護予防という枠組みについてはどうですか？

今までは障害ありきでやってきましたが、今の流れは介護予防になってきていますよね。我々も今までは元気なお年寄りになにかをやるということはなかったのですが、介護予防について考えるよう少しずつシフトしてきています。

ST 県士会での動きとしては？

具体的にそれほど依頼は来ていないのですが、私の場合は大崎市から摂食嚥下についての講演依頼や、看護協会や栄養士から依頼があったときにはそちらに出向いて介護予防に役立ちそうなことを提示しています。仙台市では少ないのですが、県南や県北では介護予防に対しての意見交換などもしています。

実際の現場での印象はどうですか？

やはり年齢と共に嚥下障害がない方でも嚥下能力が落ちてきているのが現状ですね。手足の筋肉が落ちるように加齢によって嚥下の筋肉も落ちてくるんです。印象としては女性よりも男性の方がより嚥下に関する筋力が衰えるケースが多いですね。

嚥下体操の効果はどうですか？

細かくデータは取っていないのですが、嚥下体操をやった方のほうが90代とかになってもしっかりと食べている方が多い印象を受けるので、何かしらの効果はあると思います。

宮城県の行政としてST領域の介護予防を連携してやっていく展望は？

今現在は県レベルよりも市町村レベルのほうが具体的に動いていますね。栄養士会とか訪問看護師、歯科医師、歯科衛生士、教育団体などからも口腔体操や食形態についての講演依頼などがきています。

領域としては他部門と被るところもリンクするところもありますか？

そうですね。しかし、STは口を動かして飲み込むというところはなんとかできるのですが、やはりシーティングや栄養面のことなどは多職種との連携が不可欠ですね。ここ2、3年でこのようなしっかりとした連携がとれるようになってきたなと思っています。

特別出演

佐々木整形外科麻酔科クリニック 院長 佐々木 信之先生

先生はロコモティブシンドロームに対する予防啓発活動を広く行われており、数多く講演されています。またロコモ予防ソングを制作し、東日本大震災後は被災地にて健康運動支援を行われ、「運動器の10年」世界運動から優秀賞を受賞されています。

実際に啓発活動をしてみてどうですか？

結構楽しい体操ですし隣の人と手を組むなどといった非日常なことなので、一体感が出て継続してできそうだという声も聞かれています。また、笑顔でやっていただいているのでより効果的です。ただ単純に片足立ちやスクワットをしるというのではなく、歌詞の中にロコチェックの内容も入っているので良かったと思います。

被災地などでも活動していらっしたんですね？



そうですね。そもそもきっかけとなったのが、東日本大震災の二か月後にリピート山中山さんと慰問に行ったときですね。あの時期に音楽の力っていうのは非常に強いんだと再認識しましたね。あんな環境なのに皆さん音楽が鳴ると起き上がって声出して歌うんですよ。そこでロコモの歌を作ろうという案が生まれ、制作に至りました。そして被災地での活動から始まり、今では『伸ばそう健康寿命、防ごうロコモティブシンドローム』ということ掲げ、全国各地で活動を広げています。

一般社団法人宮城県理学療法士会 事業局長 実行委員長 櫻井 健太郎先生

今年からこのイベントを事業管理部として運営してみようでしたか？

事業局は基本的に何でも屋みたくやるので、単発の事業とは違って横断的にやらないといけませんが、準備委員会に参加してくださった先生方をはじめボランティアの方々にも積極的に動いていただけたので円滑に進んだと思います。



苦労した点はありましたか？

会場の予約などは年度始めにできないとできなかったもので、チラシ作りに時間がかかりましたね。広報自体は宮城県内の地域包括支援センター全てと各区域の保健所、仙台市、後援をいただいたところ全てに送ることができたので、広報手段としては幅広くできたと思います。また今年はテレビ局などの後援も多く広報も去年よりも広くなりました。

イベントを終えてどうですか？

みんな楽しくできたのが一番ですね。大塚製薬さんにも協力してもらえたのでたくさんの方に来ていただけて楽しんでいただけたのが良かったです。

今後の展望としては？

来年はまた新たな内容も考えないといけないですし、今年から宮城県リハビリテーション専門職協会が設立されたので、3士会合同でも積極的にこのような取り組みをしていきたいと思っています。

今回のイベントでは、宮城県士会として介護予防を目的とした体操を考案し、披露しました。その開発までの秘話を伺ってきました。

宮城県理学療法士会
介護予防推進部 阿部 旭先生

元気モリモリ頑張っぺ体操

今回新たに体操を作った経緯は？

昨年度までは高知サンサンテレビの曲を使用していましたが、そろそろ県士会で独自の体操を作ろうという案が挙がり作成することになりました。

体操を作る上での注意点はありましたか？

皆さんが知っている曲でかつ盛り上げられる曲ということで、八木山ベニーランドの曲を使用させていただきました。体操をするには原曲のテンポでは速過ぎたので、文献をもとに高齢者の体操のリズムに合うよう少しゆっくりとしたテンポに変えました。また、曲自体が1分40秒と短いので、その中で上肢・体幹・下肢全てを使い、立位でも座位でもできるような内容を約1年間かけて考案しました。

体操を作る上で大変だった点がありますか？

介護予防推進部は12名で活動しているのですが、それぞれ勤務地も異なるので打ち合わせする機会をたくさん設けることが難しかったですね。振り付けについて意見のなども様々でしたが、実際会えない場面でも連絡を取り合い連携して行いました。

実際に本日披露してどうでしたか？

やはり皆さんが知っている曲なので、手拍子とかでのってくださる方がたくさんいらっしゃったので良かったですね。また、覚えやすい体操をテーマにしていたのですが、二、三回体操をすると皆さんすぐ覚えてやっていただけたので良かったです。

今後の展開として、啓発運動などはどのようにしていきますか？

本日の参加者の中にも写真をSNSに投稿する方もいますので、そういうSNSを使って広めるのもいいと思いますし、11月には仙台市の介護予防月間があり依頼を受けていますので、そこでも体操を広めていきたいと思います。



「元気モリモリ頑張っぺ体操」に興味のある方は下記までご連絡を!!

お問い合わせ先

介護予防推進部 部長

菅野 良

メールアドレス: miyagi.kaigoyobou.pt@gmail.com

一般社団法人宮城県理学療法士会 交流会 開催報告

平成28年7月17日に一般社団法人宮城県理学療法士会交流会が開催されました。当日は『理学療法の日 全国統一介護予防・健康増進キャンペーン2016』もアエルにて開催されました。交流会には当日参加を合わせまして総勢50名の先生方にお越し頂き、短い時間ではありましたが、盛況のもと終える事ができました。

今後も会員同士の顔の見える付き合いが出来るような事業を企画していきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。



一般社団法人宮城県理学療法士会
事業局長 櫻井 健太郎

第24回 日本物理療法学会学術大会のご案内



第24回日本物理療法学会学術大会
大会長 横塚 美恵子
東北文化学園大学医療福祉学部 教授

このたび、第24回日本物理療法学会学術大会を平成28年11月5日・6日の日程で東北文化学園大学にて開催させていただくこととなりました。本学会は、物理療法の学術向上と臨床応用の拡大により物理療法の科学的な体系の構築に寄与することを目的に、平成5年に『物理療法研究会』として発足し、平成11年には『日本物理療法学会』と名称変更して、活動を続けて参り、年1回の学術大会を開催しております。このように歴史と伝統のある学術大会を仙台で開催させていただくことを大変光栄に存じます。

さて、理学療法士及び作業療法士法が公布され、半世紀が過ぎました。この法律には、理学療法の術として、運動療法と物理療法が重要な領域として明文化されておりますが、臨床では運動療法が中心的位置を占め、物理療法は狭小化された状況であります。物理療法の研究が進歩を重ね、新しい治療技術が科学的に立証されているにもかかわらず、臨床で活かされている印象が顕著とまでは言えません。理学療法士自身が物理療法の治療技術を広く周知し、活用しようとする姿勢も必要とされているのではないのでしょうか。

今こそ、臨床において広く活用されるべき物理療法を再考することが求められております。このような思いから、第24回日本物理療法学会学術大会のテーマを『物理療法の再興』といたしました。特別講演では、電気刺激療法の著書を多数ご執筆されております山形県立保健医療大学伊橋光二先生に、『電気刺激療法の適応と可能性』について、教育講演では、超音波療法のご研究に継続的に携わっております京都大学大学院 森下勝行先生に『超音波療法の基礎と臨床応用』について、それぞれご講演をいただきます。いずれも、設置率と処方頻度が高いものですので、明日からの臨床にご参考になるかと存じます。また、シンポジウムは、保険診療に準じた臨床と国家試験の出題基準に従った教育の各々の立場から、今後の物理療法のあり方を考える機会といたします。

第1日目には、学術交流として懇親会を開催いたします。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日本理学療法士学会は、12の分科学会と10の部門になり、物理療法部門の学術研究の発表は、本学会と連携して取り組んでいます。専門理学療法士ならびに認定理学療法士取得および更新に関わるポイントとなります。

基礎、神経、運動器、内部障害、生活環境支援、物理療法、教育管理の領域において、履修ポイントとして20ポイント、発表ポイントとして10ポイントが認定されます。

会期：平成28年11月5日(土)6日(日)

会場：東北文化学園大学(宮城県仙台市青葉区国見6丁目45-1)

参加登録は、学術大会ホームページから



第14回 日本神経理学療法学会学術集会のご案内

この度、第14回日本神経理学療法学会学術集会を仙台市民会館にて開催させていただくことになりました。会期は、平成28年11月26日(土)～11月27日(日)の日程です。本学術集会のテーマは「脳卒中理学療法最前線」といたしました。脳卒中者に対する理学療法は、エビデンスの不十分な中で進められた過去の経緯を大いに反省し、エビデンスの構築に向けた様々な取り組みが精力的に行われている領域です。昨今の神経科学の進歩ならびに工学的革新を背景に、これまでにない速度で進化をはじめ、次々と新しい提案がなされつつあり、本領域の発展には大いなる未来があるものと期待されます。前者には神経科学を背景とした脳卒中理学療法の評価法と介入方法の提案、後者には革新的な装具の開発と普及、ロボティクスの開発と臨床応用、治療的電気刺激や経頭蓋磁気刺激、経頭蓋直流電気刺激などの neuromodulation tool の効果検証を経た運動療法との併用、リアルタイムに計測可能な各種評価機器を用いたこれまで可視化できなかった治療効果の検証などがあげられます。いずれも脳卒中理学療法の有効性を問い、より良い方向へ発展するための取り組みです。

基調講演では、ニューロリハビリテーションについて、本領域の第一人者である兵庫医科大学リハビリテーション医学教室の道免和久教授より解説していただく予定です。教育講演では理学療法士が最も関わる機会の多い、脳卒中片麻痺者の歩行トレーニングについて、最新のエビデンスを基に、どのような介入をなすべきかについて京都大学医学研究科の大畑光司先生にご解説いただく予定です。メインシンポジウムでは、高次脳機能障害に対する理学療法と題して、理学療法士が関わることで患者の改善に直接的に貢献できる可能性のある pusher 症候群、半側空間無視、失行をテーマとして取り上げ、また、トピックシンポジウムでは、neuromodulation tool の臨床実践をテーマとして、複数の先生方からそれぞれの立場でプレゼンテーションしていただき、実りのある討論ができればと考えております。ワークショップでは急性期と回復期と維持期をつなぐ連携をテーマとして、昨今、取り上げられる機会の多い装具の連携を取り上げ、精力的な取り組みをなさっている先生方にご講演いただきます。また、これまでの臨床での理学療法のあり方をしっかりとみつめ直すことを目的とし、症例報告と討論を中心とした4つのプログラム(学会指定演題「脳卒中例の下肢装具療法と歩行トレーニング」、学会指定討議型演題「重複重度障害例に対する理学療法—ベテランに問う—」、セレクション討議型演題「脳画像と理学療法」、セレクション討議型演題「症例検討」)を予定しています。これら4つのプログラムは全て公募型のシンポジウムの形式をとっており、たくさんの臨床家からの応募をお待ちしております。

東日本大震災の激震地であった宮城は震災から5年が経過し、皆様の温かいご支援をいただきながら、復活を遂げようとしています。この宮城の地から日本各地、そして世界に向けて理学療法のエビデンスを発信していただきたく存じます。

最後になりますが、本大会が素晴らしいものとなるためには、会員皆様の参加が不可欠です。積極的な演題登録と参加を心よりお待ちしております。

平成28年8月吉日

第14回日本神経理学療法学会学術集会学術集会長
広南病院リハビリテーション科総括主任
阿部 浩明



会期:平成28年11月26日(土)27日(日)
会場:仙台市民会館

第20回 宮城県理学療法学会について

会 期:平成 29 年 2 月 5 日(日)

会 場:東北文化学園大学(仙台市青葉区国見 6-45-1)

テーマ:「エビデンスに基づく理学療法 -臨床での理学療法診療ガイドラインの活用-
シリーズ第1回 肩関節周囲炎、心大血管疾患、COPD」

大会長:渡邊 好孝(松田病院)

準備委員長:青木 和人(大和町たかはし整形外科クリニック)

事務局:〒984-0042 仙台市若林区大和町 1-4-13

医療法人 宏誠会 大和町たかはし整形外科クリニック

* 演題登録が開始されております。多くの演題登録をお待ちしております。

演題登録期間:平成 28 年 8 月 1 日(月)午前 9:00 から 10 月 31 日(月)午後 5:00 まで

宮城県理学療法士会ニュース NO.1 2016年9月

平成28年度 宮城県理学療法士会 役員名簿

部局		氏名	勤務先	
理事	会長	渡邊 好孝	医療法人松田会	
	副会長 (社会・地区担当局担当)	三浦 幸一	国立病院機構宮城病院	
	副会長 (事務・財務・事業局担当)	藤野 隆喜	東北労災病院	
	副会長 (学術・教育局担当)	黒後 裕彦	東北文化学園大学	
	副会長 (委員会担当)	榊 望	仙台リハビリテーション病院	
	理事	事務局担当	高橋 利幸	介護老人保健施設 エバーグリーン・イズミ
	理事	事業局長	櫻井健太郎	仙台東脳神経外科病院
	理事	財務局長	新山 正人	大和町たかはし整形外科クリニック
	理事	学術局長	村上 賢一	東北文化学園大学
	理事	教育局長	高橋 一揮	東北文化学園大学
	理事	社会局長	阿部 功	総合南東北病院
監事	地区担当局長	坪田 朋子	自宅	
	監事	田中 文男	自宅	
	監事	永井 淳一	自宅	
事務局	総務部	総務班 (部長)	高橋 利幸	介護老人保健施設 エバーグリーン・イズミ
		会員管理班	加藤 佐市	仙台市南部発達相談支援センター
	広報部	渉外班 (部長)	渡邊 広枝	東北労災病院
		広報班	佐々木友也	仙台リハビリテーション病院
事業局	公益事業管理部 士会事業管理部	部長	櫻井健太郎	仙台東脳神経外科病院
財務局	会計部 (部長)	古山 智子	仙台青葉学院短期大学	
学術局	学術大会部 (部長)	鈴木 誠	東北文化学園大学	
	専門領域研究部	神経系研究会 (部長)	村上 賢一	東北文化学園大学
		骨・関節系研究会	坂上 尚穂	仙台青葉学院短期大学
		内部障害系研究会	藤村 伸	東北厚生年金病院
		物理療法研究会	横塚美恵子	東北文化学園大学
教育系研究会	鈴木 誠	東北文化学園大学		
教育局	学術誌部 (部長)	高橋 一揮	東北文化学園大学	
	教育部 (部長)	阿部 玄治	東北文化学園大学	
	生涯学習部	生涯教育班 (部長)	川上 真吾	東北文化学園大学
社会局	健康増進支援部 (部長)	千葉 涉	松田病院	
	介護予防推進部 (部長)	菅野 良	塩釜市立病院	
	医療保険部 (部長)	金子亮太郎	松田病院	
	介護保険部 (部長)	阿部 功	総合南東北病院	
地区担当局	県南地区	安孫子 洋	総合南東北病院	
	太白名取地区	高島 悠次	長町病院	
	青葉泉地区	坪田 朋子	自宅	
	宮城野若林地区	高島 悠次	長町病院	
	大崎栗原地区	門脇 敬	大崎市民病院鳴子温泉分院	
	石巻登米地区	福原 浩之	石巻ロイヤル病院	
	気仙沼地区	小野寺裕志	気仙沼訪問リハビリステーション	
常設委員会	災害支援対策委員会	坪田 朋子 (委員長)		
	組織検討委員会	榊 望 (委員長)		
	スポーツ医科学推進委員会	大友 篤 (委員長)、小野 秀俊		
	3職種リハ振興委員会	阿部 功 (委員長)		
	地域包括ケア推進委員会	榊 望 (委員長)		
政策検討委員	榊 望 (委員長)			

選挙管理委員会		舟山 伸利	仙台赤十字病院
		小石川紀男	杜都中央病院
日本理学療法士協会代議員		渡邊 好孝	医療法人松田会
		榊 望	仙台リハビリテーション病院
		藤澤 宏幸	東北文化学園大学
		黒後 裕彦	東北文化学園大学
		坪田 朋子	自宅
東北ブロック協議会	理事	渡邊 好孝	医療法人松田会
		榊 望	仙台リハビリテーション病院
	学術局学会部	小林 武	東北文化学園大学
	学術局機関紙編集部	鈴木 誠	東北文化学園大学
	学術局教育研修部	芝崎 淳	総合南東北病院
	事務局長	菊地 雅行	松田病院

県士会ニュースおよびホームページへの掲載依頼について

県士会ニュースと県士会ホームページへ掲載を依頼される場合は、広報部広報班までご連絡ください。原稿は、WORDまたはテキスト形式を基本とします。PDFファイルへも対応は可能ですが、適切に印刷(掲示)されない場合があります。また掲載が適切ではないと判断された場合には、ご意向に添いかねることもありますのでご了承ください。

またご不明な点やご希望等ございましたら、下記までご連絡ください。

宮城県理学療法士会 広報部広報班

宛 先：〒981-3341 黒川郡富谷町成田1丁目3-1

仙台リハビリテーション病院 リハビリテーション部 佐々木友也 石山 歩

TEL：022-351-8118 FAX：022-346-8496

E-mail: news.edit@pt-miyagi.org

次号県士会ニュース締切： 12月10日まで

発行日：平成28年9月8日
 発行：宮城県理学療法士会
 代表者：渡邊 好孝
 編集：佐々木友也 石山 歩
 印刷：合同会社P・プログレス
 〒983-0021 仙台市宮城野区田子2-33-17

